

Nursing Today ブックレット

日本看護協会出版会

2019年から出版されているシリーズがついに10冊目をむかえたことを記念してこれまでのシリーズを紹介します。ワンテーマの小冊子。読みごたえはあるけれども、1冊あたりのページ数が少ないのが魅力です。

一般の方にもわかりやすいように書かれているものもあります。移動のおともにいかがですか？



しなくてもいい治療があるの？！

①『患者の「賢い選択」を支える看護』

小泉俊三・井部敏子 2019

様々は情報が氾濫する中、患者は治療を選択する時代になりました。しかし、その選択はあまりにも大きな負担と言わざるをえません。

与謝野晶子も無痛分娩を経験！

②『無痛分娩と日本人』 田辺けい子 2019



あなたは、無痛分娩で生まれましたか？また、出産経験があるならば無痛分娩でお子さんを生みましたか？

日本では明治時代から無痛分娩があったそうです。しかし、日本での無痛分娩の実施率は6.1%(2016年)。ちなみにアメリカでは73.1%です。

なぜ、日本では無痛分娩が受け入れられないのでしょうか？また、助産師はどのように専門性を発揮すべきなのでしょう？



「虐待」とは地域社会の問題

③『子どもを虐待から護る』 上野昌江 2019

コロナ禍のため困窮や孤立は、本書出版当時よりもますます深刻になり、いたましい報道が後をたちません。

気になる子や支援を必要としている親にどうかかわるか、看護師・助産師・保健師それぞれの視点から解説。



補聴器は眼鏡と一緒に？

④『「聞こえにくい」をほっとかない』

小川郁 2020

多くの高齢者は、「補聴器はつければ聞きとれる」と考えています。しかし、補聴器は調整とトレーニングが必要で、そうしなければ十分に力を発揮しません。補聴器をつけようか考えている人に情報提供できることとは？

「看護学」は人生にとって重要で面白い学問

⑤『一般教養としての「看護学概論」』

深井喜代子 2020



神経生理学者から看護学の道へ転職した筆者が行う、医療や看護になじみのない学生に向けた講義。流通大手のCMをみせたり、手洗いの歌や手術用の手袋の装着を体験したり…。1人で240人の学生をひきつける！

リハビリテーション医学の主体は本人

⑥『「生きるを支える」リハビリテーション』

上田敏 三井さよ 2020



本当のリハビリテーションとは、何らかの社会的役割を実現することが目標である。しかし、今では「マヒを治す」ための「訓練」を続けることがリハビリだと思われていて…。



いつか言いたい。こんなこともあったね…

⑦『多職種でコロナの危機と向き合う』

梶原絢子 2020

2019年末の中国から始まり、瞬く間に世界中に広まった新型コロナウイルス感染症。当初、WHOはマスクを積極的に推奨していなかったが、現在ではユニバーサルマスクが当たり前となっている。

本書は、未知の感染症に物品が不足する中どう対応したかが記録されている。



私は司書であり看護師ではありません。皆さんにとっては当たり前のことが当たり前ではありません。ここには、そんなことも含め書いていますので、患者さんに説明するときふと思い出してもらえたら…と思います。

HPではバックナンバーもあわせて公開しております。

我が国の透析療法はトップレベル！

⑧『透析と意思決定』

Nursing Todayブックレット編集部 2020



透析を中止すると、数日から数週間で死に至るため「人生の最終段階」となります。では、一旦開始した治療は、一生続けなくてはならないかといえば、決してそうではないそうです。継続するのも中止するのも患者の意思を尊重。しかし、中止理由が「患者の誤解」の場合は、医療者は患者と話し合う必要があります。

認知症高齢者やがん末期患者と透析についてなど様々な事例を紹介。

誰のための、何のための介護なのか

⑨『特養あずみの里裁判を考える』

Nursing Todayブックレット編集部 2021



2013年12月12日に、特養あずみの里でおやつのだーナツを食べた後にKさんが亡くなった。亡くなって2週間ほどで示談が成立していたにもかかわらず、准看護師のYさんは、Kさんへの注意義務を怠ったとして裁判にかけられることとなった。

Kさんの死因は本当に「窒息」だったのか？全世界の「窒息」死亡者の3割を占める日本一。本書では、裁判の争点とともに様々な見解を紹介。



「医療崩壊」では伝わらない…

⑩『「コロナ」と「看護」と「触れること」』

波平恵美子 田辺けい子 2021

コロナ流行に伴い、マスクでは「医療崩壊」が繰り返し伝えられてきました。しかし、一般の人にとってそれが「外傷等で緊急搬送されても医療が受けられない状態」だとは当初認識されていませんでした…。

医療人類学の第一人者が、コロナによる看護への影響を語ります。